

令和 4 年度 上戸祭小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標：心身ともに健康で日本及び国際社会に貢献できる人間の基礎的な資質を養う。
 ＝ 心身ともに健康でたくましく，創造力と実践力に満ちた，心豊かな児童の育成 ＝
 —自分や他人を大切に子ども・進んで学ぶ子ども・たくましく生きる子ども—

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

＝ 合言葉：「学ぼう 遊ぼう 友だちと」 ＝
 人間尊重の精神を基盤としたあらゆる教育活動を通して，学校教育目標に掲げた児童の育成を図る。
 そして，児童が，社会の中で自分の能力を発揮し自己実現できるようになるために，「できなかったことができる，分からなかったことが分かる」ように，児童と教師と学校の power up を図る。
 《目指す学校像》 楽しく学べる学校 安全で潤いのある学校 地域とともに歩む学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （１）児童の power up のために，個に応じた指導を充実させ，保護者と連携して家庭学習の習慣化を図るとともに，社会性の育成を推進する。
- （２）児童の power up を支える教師の power up のために，校内研修を計画的・継続的に実施し，授業力の向上を図る。
- （３）教師の power up を支える学校の power up のために，地域や保護者への情報提供と地域の教育力を生かした取組の推進と働き方改革の推進を図る。

○[星が丘地域学校園教育ビジョン] 未来を見つめ，学び続ける力の育成
 ～星が丘地域学校園の学校文化を築くことを通して～

4 教育課程編成の方針

- ・日本国憲法，教育基本法，学校教育法及び学校教育法施行規則並びに小学校学習指導要領，栃木県教育委員会施策，宇都宮市教育委員会の基本方針や努力点の示すところに従い，本校教育課程を編成する。
- ・2022 年度の本校の教育目標の実現を目指して，各教科等及び各学年間の関連を図り，系統的・発展的な指導ができるようにするとともに，地域や学校の実態及び児童の心身の発達段階と特性を十分に考慮し，特色ある教育課程を編成する。
- ・各教科・道徳・特別活動及び総合的な学習の時間などの関連を図り，調和と統一のとれた編成に努める。
- ・令和 3 年度学校評価の反省と改善策，本年度の経営方針を踏まえ，学校教育全般において，知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指した教育活動の展開を図ることができるよう配慮して編成する。
- ・「宮っこ未来ビジョン」「うつのみや“いきいき学校”プラン」「宇都宮市学校教育スタンダード」の趣旨を生かすとともに，本市小中一貫教育カリキュラムや星が丘地域学校園における「身に付けたい力」や「重点単元」等に基づき，教育課程の編成と実施に努める。
- ・「社会に開かれた教育課程」の実現に向け教育課程の工夫改善を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- （１）学校運営
未来を見つめ，夢と希望に満ちた学校づくり
- （２）学習指導
 - ・自分の考えや思いを豊かに表現しながら，学びを広げるために，互いの意見を伝え合い，ICT を効果的に活用しながら学び合うことのできる児童の育成。
 - 未来を見つめ学び続ける児童の育成
 - ・「かみと学校マニフェスト」による学力向上（めあての提示，学び合う活動の確保，振り返りの時間の設定 等）
- （３）児童生徒指導
 - あいさつと言葉遣いを重点とした，望ましい生活習慣と正しい判断力の育成

○ 互いのよさを認め合い、自己有用感を高め、他人を思いやることのできる児童の育成
(4) 健康(体力・保健・食・安全)
○ 自らのめあてを明確にし、進んで体力向上に取り組む児童の育成
・ 児童の健康な生活習慣の定着
(5) 教職員の働き方改革
・ 教科担任制の推進と校内業務の効率化の推進
・ リフレッシュウィークの奨励

6 自己評価(評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。)

※「小中一貫・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組に関わる内容は文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 95%以上	①自分の考えや思いを図や言葉で表現したり、話し合ったりするなど、豊かに表現して学び合う児童を育成する。 ②発達の段階に応じて、「発表の仕方」や「話の聞き方」のルールを示し、相手に分かりやすく伝えたり、自分の考えと比較して意見を述べたりできるよう、自分の考えを伝える力を育成する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 95.9% 教職員の肯定的回答 100% ・目標値を達成することができた。 ・今年度も、ICTを活用するなど話し合いの持ち方を工夫することで、学びを深めることができた。 【次年度の方針】 ・「学習のきまり」を基本にしながら、相手に分かりやすく伝えたり、自分の考えと比較して意見を述べたりできるよう、自分の考えを伝える力の育成に継続して取り組む。
	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 90%以上	①道徳科の授業の実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 ②人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を実施する。 ③相手の立場を考えて思いやる心を育めるよう児童会活動や縦割り班活動を計画的に実施する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 93.2% 教職員の肯定的回答 100% ・目標値を達成することができた。 ・児童会活動や縦割り班活動が制限される中、清掃活動や登校班で相互に思いやりの心を持って関わることができた。 【次年度の方針】 ・清掃以外の縦割り班活動を取り入れ、他学年との交流の中で、相手の立場を考えて思いやる心を育む。
	A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 90%以上	①「かみとよい子のやくそく」に基づく全校共通理解のもとで、基本的生活習慣と正しい判断力の育成に努める。 ②きまりやマナーを守って行動していることを児童が相互に認めあう場や教師が称賛する機会を数多く設け、意識付けしながら実践意欲を高める。 ③生活目標に決まりやマナーに関する目標を掲げ、休み時間に巡視や指導を行うことで、児童の意識化を図る。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答 96.9% 保護者の肯定的回答 95.0% ・目標値を達成することができた。 ・決まりやマナーに関する生活目標を、児童の実態に合わせて設定し、重点的に指導した。 【次年度の方針】 引き続き「かみとよい子のやくそく」の全校共通理解のもと、指導を行う。

児童の姿勢	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒児童・地域住民 85%以上	①年間を通して地域や地域学校園と連携して児童が中心となって工夫したあいさつ運動を展開するとともに、登下校や上戸タイム、朝の会、帰りの会など、さまざまな場で児童の規範意識を高める指導を行う。 ②自ら進んであいさつすることや、時と場に応じた言葉遣いについて、地域住民や保護者に働きかける。 ③日々の生活の中で教職員も進んであいさつを行い、児童のあいさつに対する意識を高める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 95.7% 地域住民の肯定的回答 91.3% ・目標値を達成することができた。 ・マナーアップ委員会が中心に積極的にあいさつ運動に取り組んだ。全校児童に参加を呼びかけるイベントを企画し、あいさつへの意識を高めた。 【次年度の方針】 児童が中心となったあいさつ運動を継続・展開し、児童の意識を高める。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①児童の自己有用感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任が認め励ます指導に努める。 ②各教科の授業や校内での各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 91.0% 教職員の肯定的回答 96.9% ・児童・保護者ともに目標値を上回った。 ・学習カードやキャリアパスポート、様々な行事等で目標設定と振り返りの繰り返しで、児童が達成感を味わうことができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、教職員が認め励ます指導に努めるとともに、児童相互に認め合う場面を数多く設定していく。 ・「家庭学習の記録」で、達成可能で具体的な目標を設定し、スモールステップで継続していけるように支援していく。
	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 90%以上	①児童が自分の健康に気を付けて生活できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常生活指導を行う。 ②学校給食と各教科等との関連を図り、栄養のバランスのとれた食事と望ましい食習慣を育成するとともに、食前食後の手洗いを徹底して感染症予防に努める。 ③交通安全指導や避難訓練を定期的に行い、自然災害も含め、自分の命は自分で守ろうとする意識が高められるよう、指導を工夫する。 ④廊下や階段の歩行、校庭での遊び方等、校内での安全な生活について児童に意識させるとともに、全職員で指導する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 91.4% ・教職員・保護者ともに目標値を上回った。 ・避難訓練や交通安全教室などの振り返りを実施することで、児童の安全への意識が高まった。 【次年度の方針】 ・本年度の具体的な取り組みを継続していくとともに、廊下の歩行等校内での安全な過ごし方や外遊びの奨励など、さらに健康や安全への意識を高めていく。

目 指 す 児 童 の 姿	A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 80%以上	①宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して、意図的・計画的に指導する。 ②家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 91.0% 保護者の肯定的回答 77.1% ・目標の設定やふりかえりを行い、目標の実現に向けての意欲を高める指導を行った結果、児童の目標値は達成できたものの、保護者の肯定的回答は目標値を下回った。 【次年度の方針】 ・学年や発達状況に応じた達成可能な目標の実現に向けて、取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して、意図的・計画的に指導する。 ・学校ホームページや授業参観、個人懇談などの機会を生かし、委員会や係の活動の様子などを伝える。
	A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	①外国語活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ②外国語活動に関する校内研修やALTと事前に綿密な打合せを重ねるなど、指導力の向上を図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 93.4% ・目標値を達成できた。 ・英語を使ったやりとりを重視し、積極的にコミュニケーションを図る機会を設けた。 ・英語掲示板を活用して、児童が興味を持って英語に親しめる環境を整えた。 【次年度の方針】 ・簡単な英語表現に繰り返し触れさせたりALTと協力したりしながら、さらなるコミュニケーション能力の向上を図る。
	A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	①各教科等の授業や校外学習、家庭学習、食育や学校図書館等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ②教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 89.1% ・目標値を達成できた。 ・6年生が総合的な学習の時間に調べた内容を発表し合ったことが、児童が宇都宮市の良さに気付くきっかけとなった。 ・社会科や生活科、総合的な学習の時間などにおいて、身近な地域や宇都宮市を調べることを通して、宇都宮市の良さに気付くことができた。 【次年度の方針】 ・授業で身近な地域の学習を行う際には、宇都宮のよさについても意図的に触れるようにする。 ・職員研修の機会を設けるなどして、職員の意識を高めていく。

目 指 す 児 童 の 姿	A10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者・教職員 80%以上	①児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にI C T機器を活用する。 ②各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③一人一台端末を活用した学習を家庭と連携して取り組んでいく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 95.7% 保護者の肯定的回答 85.1% 教職員の肯定的回答 100% ・児童・保護者・教職員ともに目標値を達成できた。 ・授業において積極的にI C T機器を活用したり、司書教諭と連携し授業内容との関連に配慮した教育図書を充実させたりすることで、学習効果が上がってきた。 【次年度の方針】 ・学年だより等で、I C T機器や図書を活用した学習の様子を、引き続き保護者に伝えていく。 ・司書教諭と連携し、各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の充実に引き続き努めていく。
	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①道徳や生活科・総合的な学習の時間等において、生命や人権を尊重する心や、他人を思いやる心、高齢者理解などを体験活動と関連を図りながら涵養する。 ②お世話になっている方々に手紙を書いたり、日常的に地域でお世話になっている方や高齢者を話題にしたりすることで、交通指導員さんや安全ボランティア、地域の方々への感謝や思いやりの心を育む。	【達成状況】 児童の肯定的回答 93.2% 教職員の肯定的回答 100% ・児童・教職員ともに目標値を上回った。 ・教科等の学習と関連づけたり、折に触れて支えてくださっている方々の存在を話題にしたりすることで、感謝の気持ちを育むことができた。 【次年度の方針】 ・今年度の具体的な取組を継続するとともに、道徳や生活科、総合的な学習の時間、社会科等の学習の機会を捉え、先人や家族への尊敬、感謝、思いやりの気持ちを育てていく
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①総合的な学習の時間における環境教育や各教育等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ②豪雨による水害や東日本大震災などの過去の災害の具体事例から学ぶ機会を設け、防災教育を充実する。	【達成状況】 児童の肯定的回答 91.7% 教職員の肯定的回答 84.4% ・総合的な学習の時間等を通して環境問題への意識を高めることができた。 【次年度の方針】 ・職員研修の機会を設けるなどして、職員の意識を高めていく。 ・「持続可能な社会」について、社会科等の学習を通して、資源を大切にしようとする態度を育てる。 ・委員会活動の充実を図るなどして、児童の環境問題や防災意識を高められるようにする。

B 1 児童は、遊びや運動を楽しんでいる。 【数値目標】 学校独自アンケート 「児童は、遊びや運動を楽しんでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①体育の時間にがんばりカードを活用することで運動への意欲を高め、運動の楽しさを味わわせるとともに、体育の時間や学級活動で行う運動や遊びを生活の中につなげる。 ②一輪車、竹馬などの遊具を整備するなど、休み時間に進んで運動に取り組めるような機会を設定し、委員会活動と関連付けて屋外遊びを奨励する。	【達成状況】 児童の肯定的回答 97.9% 保護者の肯定的回答 95.6% ・児童・保護者ともに目標値を上回った。 ・各種がんばりカード等の活用や、体育委員会の遊びを紹介する活動などにより、児童は意欲的に運動に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・体力テストの結果等を分析し、本校の実態に応じた体力向上につながる運動や遊びを紹介し、楽しみながら運動能力の向上を図れるように工夫する。 ・上戸タイムや昼休みの外遊びを奨励する。
B 2 児童は、自分の好きな部分に自信をもって生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、自分のよさに自信をもって生活している。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①児童についての情報交換や教育相談、学校生活アンケート（年間6回実施）、Q-U検査の結果の分析などにより、児童一人一人に目を向けた指導に努める。 ②一人一人の児童が居がいをもって学校生活を送ることができるよう、教員が積極的に児童のよさを見つけ、誉めたり言葉掛けを行ったりするとともに、悩みをもつ児童が教師に気軽に話ができる体制づくりを行う。 ③学級の中での当番や係活動、また委員会活動や縦割り班活動等を通して、一人一人が活躍できる場を設定していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 90.4% 保護者の肯定的回答 84.2% ・教育相談等の機会に直接児童の長所について伝え、高学年児童は委員会活動や学校行事等で活躍するなどし、児童は目標値を上回ったが、保護者の肯定的回答率が目標値を下回った。 【次年度の方針】 ・「ありがとうカード」など、児童相互でよさを認め合う活動を意図的、継続的に行うことで、自己有用感の向上を図る。 ・道徳や学級活動等の機会を活用し、学校と家庭の双方から児童の長所や頑張りを伝え合ったり共有したりする機会を増やしていく。
A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒ 教職員 85%以上	①特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ②必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% ・目標値を達成できた。 ・職員会議の都度、配慮の必要な児童の情報共有を行ったり、教育支援委員会やケース会議を適宜設けたりし、全教職員の共通理解の下、きめ細やかな指導を心掛けることができた。 【次年度の方針】 ・次年度も引き続き、特別な支援を要する児童に対して、適切な指導・支援を全校体制で行っていく。

目 指 す 学 校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%・保護者 85%以上	①学級活動、道徳科の授業を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 ②児童会主体の「いじめゼロ運動」の推進に努める。 ③定期的なアンケートや教育相談等から、児童を共感的に理解した上で、組織的な対応によりいじめの早期発見・早期解消を図る。 ④学年だよりや学校ホームページに道徳や学級活動で学習したことや、児童の様子などを掲載し情報を発信していく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 97.2% 保護者の肯定的回答 85.8% ・目標値を達成できた。 ・児童会主体の「いじめゼロ運動」を充実させることができた。学校ホームページに取り組み様子などを掲載し、情報の発信ができた。 ・アンケートや教育相談等を定期的に行うことにより、児童理解を深め、些細なトラブルを把握・解決することができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、指導や実態の把握、児童主体の活動の充実を図り、その様子を積極的に発信していく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合う機会をつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	①児童の自己有用感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任が認め励ます指導に努める。【A5①再掲】 ②教育相談、アンケート、Q-U調査、SCとの教育相談などの結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見、不登校の兆候や傾向の児童に関わる校内全体の情報共有を図る。 ③職員会議で定期的に児童の情報交換を行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 95.3% ・教職員が、児童がともに認め励まし合う機会を持った。 ・不適応や不登校の兆候や傾向のある児童に関わる校内全体の情報共有を行い、きめ細やかに対応した。 【次年度の方針】 ・引き続き、児童がお互いに認め合う場を意図的に設けたり、児童を励ます指導を行ったりしながら児童の有用感を高めていく。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	①外国人児童について全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ②児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% ・目標値を達成できた。 ・異なる文化の違いを認め合えるような支援を日常的に行ってきた。 【次年度の方針】 ・外国人児童についてのさらなる共通理解を図り、個に応じた支援が計れるよう組織的に取り組んでいく。 ・本年度の実践を継続し、児童がお互いの国籍や文化の違い等を認め合い、尊敬し合えるような雰囲気づくりに努めていく。

目 指 す 学 校 の 姿	A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、活があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 90%以上	①日常的に児童の見取りを細かく行い児童一人一人の話をよく聞き、声を掛け、よいところを認め、伸ばす指導に努める。 ②職員間で学習情報システムを利用した情報共有を含め、より報交換を密にし、児童のよさを共有し、伸ばす積極的な児童指導に努める。 ③活動が制限されている中でも、学年等を単位とした小イベントや、放送や映像を活用した委員会活動などを企画するなどして、学校生活の活性化につなげる。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 92.8% 保護者の肯定的回答 89.9% ・感染症対策の中、児童が楽しめる主体的な活動を工夫したことで、児童は目標値を上回ったが、保護者は指標をわずかに下回った。 【次年度の方針】 ・人間関係づくりの基本である挨拶を重視し、明るく気持ちのよい挨拶が行き交う学校を目指す。 ・児童一人一人が生き生きと主体的に学習活動に取り組めるように工夫していく。 ・引き続き学校での活動の様子を積極的に発信していく。
	A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	①漢字、計算、音読などを発達の段階に応じて取り入れ、基礎・基本の定着を図った上で、分かる授業のための教材研究・授業研究に努め、自分の思いや考えを豊かに表現させながら、学び合う授業を展開する。 ②教師は授業の中でねらいの提示、友達の考えと自分の考えを比較し、さらに学びを深める活動、振り返りの時間を設定し、個に応じた支援を継続していくことで、全体的な学力向上を図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 97.0% ・目標値を達成できた。 ・授業の中でねらいの掲示、振り返りの設定などを通し、学力の向上を図ってきた。 【次年度の方針】 ・職員研修や授業研究の機会を充実させ、指導力のさらなる向上を図る。 ・児童の実態に合わせ、個に応じたきめ細やかな支援を継続していく。
	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	①「チーム上戸」の合言葉のもと、校内における良好な人間関係の醸成を図ることで、より一層の風通しの良い雰囲気づくりに努める。 ②校内のOJTをさらに進め、教職員の専門性を生かした取り組みを推進するなど、チームとしての協働性を高め、教職員の資質向上を目指していく。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 96.9% ・目標値を達成することができた。 ・校内の諸課題について、共通理解を図るとともに、教職員の専門性を生かした取り組みができた。 【次年度の方針】 ・校内における良好な人間関係を継続させ、小さなことでも相談し合えるより良い雰囲気づくりに努める。 ・校内のOJTをさらに進め、チームとしての協働性を高め、若手教員の育成に力を入れ教職員全体の資質向上を目指していく。

学 校 の 姿 の 目 指 す	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	①教職員の負担軽減に向け学校の組織運営の改善や、各種行事等の精選を行う。コロナ対応に関しては、本年度の経験を生かし、過剰になりすぎることなく臨機応変に対応し、負担軽減を心掛ける。 ②1人1台端末の効果的な利用についてICT支援員と連携を取りながら学び合う機会を設け、業務の効率化につなげていく。 ③「リフレッシュウィーク」を設けることで、勤務時間を意識した業務の効率的な実施や計画的な処理を進められるようにする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 87.5% ・目標値を達成することができた。 ・昨年度と比較すると、肯定的回答率が高まった。コロナ対応やGIGAスクール構想への対応などにも慣れてきたと思われる。 【次年度の方針】 ・コロナ対応版から行事等の復活が考えられるので、児童中心に考えつつ教員の負担増にならないよう、行事等を精選していく。 ・1人1台端末の効果的な利用についての研修の場を設けるなど、個人のスキルアップを図り、業務の効率化につなげていく。 ・「リフレッシュウィーク」が形骸化しないよう、学年間で声を掛け合いながら雰囲気づくりに努め、早目の退勤を心がける。
	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 85%以上	①星が丘地域学校園ビジョンに基づき、中学校との連携を保ち、あいさつ運動や乗り入れ授業を、目的を明確にして効果的に実施する。 ②地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。 ③地域学校園の取組の様子について、学校HP等を活用して保護者への周知を図る。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 83.5% ・教職員は高い肯定的回答率を得られたが、保護者は目標値を下回ってしまった。 【次年度の方針】 ・乗り入れ授業やあいさつ運動、などを計画的、効果的に実施し、中学校との連携を深めていく。 ・一人配置職員の分科会を通し、学校園内で連携して支援体制をさらに充実させていく。 ・学校HPや学校だより、さくら連絡網などを通じ、地域学校園としての校内での取り組みを積極的に発信していく。
	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」における肯定的回答 ⇒保護者・地域住民 85%以上	①地域協議会や地域コーディネーターと連携を図り、感染症対策を十分に行いながら、地域の人材や施設等の教育力を生かした学習を可能な範囲で実施していく。 ②家庭や地域社会との連携による教育活動を実施することで、よりよい生活習慣の育成や効果的な学習活動の展開を目指す。	【達成状況】 保護者の肯定的回答 90.9% 地域住民の肯定的回答 82.6% ・保護者の肯定的回答率は高かったが、地域住民の値は目標を下回ってしまった。 【次年度の方針】 ・窓口となる教員を中心に、状況に応じた実践の方法を提案するなど、各ボランティアの方々との連携が途絶えないよう留意していく。 ・感染状況に応じて、ゲストティーチャーや地域ボランティアの活用など、家庭や地域との連携による学習活動の場を少しずつ増やしていく。

目 指 す 学 校 の 姿	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者・地域住民 85%以上	①地域協議会や地域コーディネーターと連携を図り、地域の人材や施設等の教育力を生かした学習を充実させ豊かな体験活動や居場所づくりを展開する。＜再掲A22①＞ ②感謝の手紙を届けるなどの活動を通して、地域の方々への感謝の気持ちを醸成し、地域、家庭、学校が連携して地域を愛する心の育成に努める。 ③宮っ子ステーション「かみたま」「上戸クラブ」との連携を図り、児童の放課後の多様な体験活動、居場所づくりに努める。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答 90.9% 地域住民の肯定的回答 82.6% ・保護者からは高い肯定的回答率を得られたが、地域住民は目標値を達成することができなかった。 【次年度の方針】 ・地域を愛する心の育成にさらに力を入れるため、地域について学ぶ場を設定したり、地域の方へ感謝の手紙を届けたりする活動を継続していく。 ・児童の情報交換など「かみたま」や「上戸クラブ」との連携を密に保ち、日常の児童指導にも生かしていく。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%・保護者 85% 地域住民 85%以上	①毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ②危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③コロナウイルス感染症予防対策、熱中症対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、年間を通して保健指導管理に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 96.9% 保護者の肯定的回答 93.4% 地域住民の肯定的回答 100% ・「コロナ感染症対策マニュアル」に基づき、全職員で感染予防にあたった。 ・教職員、保護者、地域住民すべてにおいて高い肯定的回答率が得られた。 【次年度の方針】 ・実施時期や内容の変更も含め、より実践的で効果的な避難訓練や引き渡し訓練を実施していく。 ・さまざまな感染症に対する予防対策を、今後も継続して実践していく。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者・教職員 80%以上	①児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 【A10①再掲】 ②各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 【A10②再掲】 ③一人一台端末を活用した学習を家庭と連携して取り組んでいく。 【A10③再掲】	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 95.7% 保護者の肯定的回答 85.1% 教職員の肯定的回答 100% ・児童・保護者・教職員ともに目標値を達成できた。 ・授業において積極的にICT機器を活用したり、司書教諭と連携し授業内容との関連に配慮した教育図書を充実させたりすることで、学習効果が上がってきた。 【次年度の方針】 ・学年だより等で、ICT機器や図書を活用した学習の様子を引き続き保護者に伝えていく。 ・司書教諭と連携し、各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の充実に引き続き努めていく。

本校の特色・課題等	B3 教職員は、児童のよさや努力を認め励ます指導をおこなっている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「先生は、自分のよいところを見つけて、ほめてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%・保護者 85%以上	①児童の自己有用感を高められるよう児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます機会を設け、指導に努める。 ②機会を積極的に捉えて、児童のよさや児童が努力したことを各種便りやホームページ、スタンダードダイアリー等で保護者や地域に伝えるように努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 96.6% 保護者の肯定的回答 89.8% ・児童、保護者ともに目標値を超える肯定的回答率を得ることができた。 【次年度の方針】 ・教師が児童の小さな変容に目を向け、称賛や励ましの言葉を意識して用いつつ、友達同士でもそうした声掛けができるよう指導していく。 ・学年だよりやホームページ、スタンダードダイアリーなどを活用し、児童の良さや活躍ぶりをさらに積極的に発信していく
	B4 学校は保護者と連携して家庭学習を進めている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、毎日宿題などの家庭学習に取り組んでいる」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員・保護者 90%以上	①「家庭学習の手引き」に基づき、家庭学習の捉え方について保護者及び児童に周知徹底を図り、各自が計画を立てて家庭学習に取り組めるように支援するとともに、保護者の理解・協力を得て、家庭学習の習慣化を図る。 ②児童の提出した「家庭学習の記録」やノートによく目を通し、一人一人の学習状況や内容に応じて個別指導を行い、認め励ますことで意欲づけを図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 94.2% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 94.1% ・目標値を達成できた。 ・「家庭学習の手引き」に基づき、家庭学習の捉え方について保護者及び児童に周知徹底が図られ、習慣化されたものの、学習内容による個人差が見られる。 【次年度の方針】 ・具体的な家庭学習の取り組み方、進め方について効果的な方法を児童に示し、継続して取り組めるようにする。また、懇談会や学年だより等を通して、引き続き保護者への啓発を図る。 ・「家庭学習の記録」やICTなどを活用した学習の蓄積を行い、児童の頑張りを可視化できるようにしていく。
	B5 学校は家庭と協力して読書活動を推進している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「学校は家庭と連携して読書活動を行っている」 における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 85%以上	①地域学校園推薦図書（スター文庫）の設定・推奨、今月のお勧め図書の展示、読書週間での様々な企画等を通して、読書活動を推進する。 ②毎月第3日曜日を家庭読書の日とし、家庭の理解と協力を呼びかけながら、家庭読書の充実を図る。 ③「今学期一番心に残った本」というテーマで、学期ごとに読書郵便として紹介文を書き、保護者に知らせる活動を行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 93.1% ・教職員、保護者ともに大変高い肯定的回答率が得られた。 ・読書郵便など、様々なイベントを実施することで、児童の興味関心を高めることができたと思われる。 【次年度の方針】 ・「おうち de 読書」期間を中心に読書への取り組みをさらに働きかける。 ・今年度行ってきた様々なイベントや取り組みを、無理のない範囲で継続し、読書活動を推進していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

《学校運営面》

・A17「学校は活気がある」の項目では、児童の肯定的回答率は90%を超え目標値を上回っていることから、児童自身は意欲的に学校生活を送っていることがうかがえる。一方で、保護者、地域住民ともに前年度の肯定的回答率を下回り、さらに地域住民は市の平均より11ポイント低い。また、A22「家庭・地域・企業等との連携」についても、教職員、保護者、児童の肯定的回答率が市の平均と同等であるのに対し、地域住民の回答は市の平均よりも10ポイント以上低い。どちらも、コロナ禍により保護者や地域住民の来校の機会が減ったことで、学校の様子が伝わりにくかったことが原因と考えられる。学校の情報や取組の様子について、各種たよりやHP等を通じて、引き続き地域に発信していくことが必要である。

・A24「安全な学校」の項目では、全評価対象者において肯定的回答率が目標値を大きく上回った。コロナウイルス感染症拡大防止策、熱中症予防対策等の徹底と毎月の安全点検による危険個所の早期発見・早期修繕など、安全に配慮した環境づくりに努めてきた結果によるものと考えられる。今後も継続して取り組んでいきたい。

○B5「家庭と協力した読書活動の推進」の項目では、教職員、保護者とも目標値を大きく上回った。学校での読書を家庭に繋げる「読書郵便」などのイベントや、「家庭読書の日」や「おうちde読書」による家庭読書の推奨など、学校と家庭が連携・協力して児童の読書習慣の形成に励んだ結果と考える。

《学習指導面》

○A18「授業は分かりやすい」についての児童の肯定的回答率は、前年度に続き97%と非常に高い。これは、計画的な校内研修による授業力向上の取組と、「上戸小授業モデル」を基にした本時のねらいの設定と振り返りの重視による学力向上の取組の成果と考える。次年度も「上戸小授業モデル」を活用し、「分かる楽しい授業」の展開を目指したい。

・A9「宇都宮のよさ」、A12「持続可能な社会」の項目では、A12で教職員の肯定的回答率が目標値に届かなかったものの、教職員、保護者、児童ともに前年度を上回り、また市の平均よりも高い。社会科や総合的な学習の時間を中心に各教科において意図的に取り上げることで、児童の関心が高まったことがうかがえる。

・A10「ICT機器・図書の活用」の項目では、児童、保護者、教職員ともに目標値を大きく上回り、また、市の平均よりも高い。今年度、授業や家庭学習での一人一台端末の積極的な活用、司書教諭と連携した教育図書の整備をさらに推進した結果と考える。「学び合い」の充実による「深い学び」の実現を目指し、今後も積極的に取り組んでいきたい。

《児童指導面》

○A3「きまりやマナー」A4「あいさつ」の項目では、全ての評価対象者の回答において目標値を5ポイント以上上回っており、本校児童の規範意識が高いことが分かる。道徳科の学習、日常生活などで児童の意識を高める指導を続けてきた結果であると考えられる。

○B3「よさや努力を認め励ます指導」の項目では、児童、保護者共に目標値を上回った。機会を積極的に捉えて、児童のよさや努力したことについて称賛や励ましの声掛けを行ったことが、A7「夢や目標へ向けた努力」B2「自分のよさへの自信」において児童の肯定的回答率が目標値を5ポイント以上上回る結果につながったと考える。今後は、児童同士が互いを認め合う場を意図的に設定するなどし、児童の自己有用感をさらに高められるようにしていきたい。

○A14「いじめ対策」A15「不登校対策」の項目では、児童の肯定的回答率がいずれも目標値を大きく上回った。さらに、保護者の肯定的回答率は、それぞれ前年度を5ポイント以上上回った。児童一人一人にきめ細やかな対応を心掛けたことについて、児童、保護者からの一定の評価を得られたものと考えられる。

《健康・体力面》

・今年度も、感染症拡大防止対策、熱中症予防対策に努めてきた。今後も家庭と協力・連携し、児童が健康な生活を送れるよう日常生活での指導や行事における対策の徹底等を中心に取り組んでいきたい。

○B1「積極的な運動」の項目では、教職員、地域住民の数値が前年度を下回ったものの、児童、保護者共に目標値を大きく上回った。児童自身は体育や休み時間に運動を楽しんでいる様子がうかがえる。各種がんばりカードの活用や一輪車、竹馬などの遊具の整備などにより、今後も、楽しみながら運動能力の向上を図れるよう工夫していきたい。

7 学校関係者評価

・A2, 11, 21, B3の項目の評価については、先生方の日頃からのきめ細やかな対応とご尽力により、結果として現れたものと感じる。

・A9「宇都宮のよさ」について、肯定的回答率は目標を達成しているが、学区内のまち探検・校外学習等で要望があれば、一層協力していきたいと考える。

・A14, 17, 22の項目の評価については、コロナ禍で学校と地域との連携の機会が減少したことや、学校内の活動の様子が伝わりにくくなっていることも一因ではないか。引き続き、ホームページ等により学校の情報を発信していることについて、広くPRして欲しい。

・市との比較の中で、地域住民の意見のうち3項目が10%以上低くなっているが、これは自分たちが学校へ行く機会がな

くなり、学校や児童の様子を把握できなくなっていることに起因していると思われる。

・ A14～18, B3の児童の肯定的回答率がR3年度より低くなっているのが気になる。教職員が100%に対し、児童はR3年度より低くなっている項目は更に気になる。数値的には大した差ではないが、教職員の熱意が児童に伝わっていないということか。

・ この3年間、コロナ禍により授業参観等で学校に行く機会がほとんどなかったことから学校の様子が把握できず、A17, A22, A23に対する地域住民の肯定的回答率の低さは市の平均等より低かったが、コロナ禍以前の状況に戻れば評価は高まると思われるので、それほど心配はないと思う。

・ A22, A23について、学校だよりの回覧やHPでの情報発信など、広報活動には力を入れてもらっているが、コロナ禍以降の学校行事減少により、保護者や地域住民が直接学校に出向く機会が実質無くなってしまっているのが現状である。その結果として、保護者や地域住民の間で学校を支援していこうという意識が低下していくことが危惧される。今後のコロナ鎮静化を見据え、保護者や地域住民が以前のように学校行事に参加する機会を徐々に戻していくことが、地域の中の小学校としてよりよい形につながっていくのではないかと。地域協議会としても、コーディネーターやボランティア組織が学校からの要望に応え、あるいは学校に提案していくことなどを通じて、地域の教育力のさらなる向上・活用に協力していきたい。

・ 質問項目のうち地域住民として回答が難しい項目があり、これらの項目から地域住民を除いてはどうか。

・ 子供たちが、将来にわたってこの地域に住み続け、地域を支える人材に育ってくれるよう、地域の良さと住民同士のつながりの大切さを教えていただければ幸いである。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・ 学校行事の精選、感染拡大防止対策との兼ね合いを考慮しつつ、学校教育活動への理解が深まるよう、学校だより、学年だよりへの写真掲載、地域住民も見られるホームページの充実による家庭や地域への積極的な情報発信に加え、保護者や地域住民が直接学校生活を見ることができ機会を設けることができるよう努めていく。

○未来を見つめ学び続ける児童の育成を目指し、「はっきり・じっくり・すっきり」を合言葉に、導入段階でのめあての掲示、対話的・協働的な学習の充実、終末での学習のまとめと振り返りを全学級で行うことで、児童一人一人が主体的に学習に取り組み、学びを深められる授業を展開していく。

○引き続き規範意識の向上に努めるとともに、学校・家庭・地域の連携や「校内あいさつ運動」「小中合同あいさつ運動」の効果的な活用により、相手を意識した挨拶の習慣化を図っていく。

○いじめ未然防止として、年間6回の「学校生活アンケート」の実施、教育相談期間の設定、相談ポストの常時設置などにより、児童の悩みに対し早期発見・早期対応ができるよう、引き続き取り組んでいく。また、SNSによるトラブルを防ぐため、ICT機器の更なる活用と併せて、適切で責任ある行動をもって情報技術を利用できるよう、機会を捉えてデジタル・シティズンシップ教育に取り組んでいく。

○児童のよさを認め、伸ばす積極的な児童指導を継続するとともに、一人一人が活躍できる場を設定するなどして、居がい感をもって学校生活を送ることができるよう更なる工夫をしていく。

○教職員の肯定的回答が高い一方で児童の肯定的回答が昨年度よりも低くなっている項目については、より一層の児童理解に努めるとともに、児童の実態を基に取組内容や効果が適切であるかを振り返ることで、より児童に適した指導となるよう工夫していく。